

2019

6月

# ゆうひろば

遊通信

第 171 号

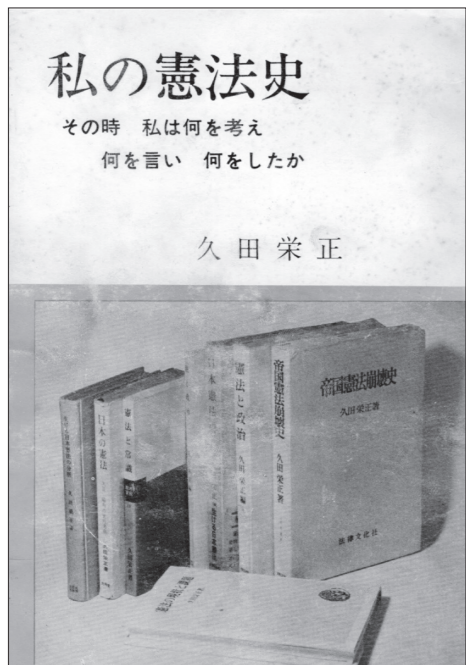


2019年6月25～26日 G20大阪市民サミットより

## 特集 憲法と天皇制

憲法の彼方へ	・・・ 2
天皇制と日本の政治思想	・・・ 4
思考停止でいいの？	・・・ 5
「天皇代替わりウォッチング」講座の途中…	・・・ 6
私と天皇制	・・・ 7
天皇制とジェンダー	・・・ 8
憲法 守れる？	・・・ 9

報告 在日コリアン戦後 70 年史を受講して	・・・ 10
報告 公開講座「北朝鮮を経済から読み解く」	・・・ 11
連載 フィールドワークな日々 (第78回)	・・・ 12
連載 東さんのボロボロ日記 (第102回)	・・・ 13
連載 きままに俳句 (第20回)	・・・ 14
事務局便り ほか	・・・ 15



久田栄正著『私の憲法史』

久田栄正著『私の憲法史』

その時 私は何を考え  
何を言い 何をしたか

久田 栄 正

久田先生が亡くなって今年でちょうど30年たちます。「遊」で講座を持つようになり改めて先生の仕事からたくさん学ぶ機会がありました。久田先生が亡くなって今年でちょうど30年たちます。「遊」で講座を持つようになり改めて先生の仕事からたくさん学ぶ機会がありました。

北村公一 (きたむらつきみかず)  
元小学校教員、札幌音楽教育サークル

ことは、司法の判断を素通りして(司法を蔑ろにして) 決めてしまつことにもなりません。

**立憲主義**

2015年は、「憲法の立憲主義元年」だと思つています。政治をつかさどる権力者は、憲法を尊重し、かつ憲法に縛られるものです。国民は、憲法の制定権力者です。そして基本的人権 (Fundamental rights) を持つています。権利は、Rightsつまり正しいことでもあります。

そうすると戦争を正当化する国家の「個別的自衛権」「集団的自衛権」は、果たして個人とおなじように権利・Rights (正しい) と言つてよいのでしょうか? 「聖戦」という名のもとでの暴力が思い出されます。したがっ

て国家の場合は、「個別的自衛権」「集団的自衛権」と言つた方がよいかもありません。両方とも暴力をとまなう戦争に変わりありませんから。権利と権力の違いを見抜かなければなりません。首相の解散権も解散権力です。政治とは「私的権力の解体をめざし、集団の権力から個人の自由を守る闘いのこと」(木庭頭)とも言えます。

**直接民主主義**

民主主義とは何でしょうか? デモクラシーのデモの語源は、民衆。クラシーは、権力。つまり民衆が権力を持つこととなります。もう少し平たく言つと「個人と個人どうしの連帯とつながりをつくっていくこと」だと思ひます。民衆の政治参加の権利には、参政権があります。また直接民主主義として住民投票やデモやその他の表現もあります。最近の香港におけるデモ、日本の60年安保闘争においても政府・権力者に大きく意思表示することができました。

となる憲法をこそ大切に生きていくべきです。

**1968から憲法の彼方に**

昨年は、「1968」の連続講座がありました。1960年代後半以降に生まれた2つの命題があります。

一つは、「個人的なことは政治的なこと」。例えば消費行動をとつてもその人の個人的な買物物が税を払つという政治的なことに深く関わっています。

もう一つは、「想像力が権力を奪つ」と訳されるのが一般ですが、直訳は「想像力に権力を」です。

天皇制がない政治社会とはどのようなものか想像してみよう。自衛隊が「平和隊」(深瀬忠一) に変わり、軍事基地がなくなる日本を想像してみよう。そのためにできることは何でしょうか。憲法—政治—民主主義この3つを考へること。74年前にもどりそこから始めても良いでしょう。日本国憲法の彼方にそういうことを考へてみました。

### 憲法の彼方へ

#### 憲法の中の天皇制

敗戦当時の政権が一番こだわったのは、「国体護持」。端的に言つと天皇制を残すことでした。国際的(連合軍)にもそれを納得させるには、戦力を持たない、戦争をしないことを憲法に明記することでした。もちろん大正リベラリズムの平和主義や1928年の不戦条約にも一言添えて調印していたという歴史的事実はあります。こうして第1章に天皇条項は残り、第1条に国民主権と同列併記されました。当時の国民意識は、戦争についての嫌悪感は激しく9条については、わりとすんなり受け入れられました。ただ国民主権と象徴天皇制については、はつきりしなかったと思ひます。昭和天皇や国家としての戦争謝罪もありませんでした。それから74年たち、私たちの憲法意識も相当変わりました。

#### 憲法学者、久田栄正

久田先生が亡くなって今年でちょうど30年たちます。「遊」で講座を持つようになり改めて先生の仕事からたくさん学ぶ機会がありました。

した。卒業の時、いただいた「私の憲法史」と後の「戦争と私」の2冊(私家版)は、宝物と言つてもよいでしょう。「私の憲法史」の表紙には、「その時 私は何を考え 何を言い 何をしたか」と書かれています。多分先生の重視したのは、「何をしたか」だと思つています。

学んだことは、大きく3つあります。その一つは、反骨精神。彼の生き様から学びました。二つ目は、非武装平和主義。深い戦争体験から生まれたものでした。三つ目は、憲法第13条の個人の尊重。それにとどまることなく13条を抵抗権の萌芽としてとらえ、9条と前文から「平和的生活権」さらに「平和的生存権」へとつなげ憲法事件、長沼ナイキ基地訴訟を闘いました。札幌のすぐ近く長沼でミサイル基地反対闘争があり、札幌地裁で自衛隊違憲判決が出たことを私たちは、忘れてはなりません。

また最高裁は、いまだ自衛隊について憲法判断をしていません。避けてきたと言つてよいでしょう。従つて自衛隊を憲法に明記する

### 北村公一



特集

天皇制と日本の政治思想

花崎 皋平

私は一九三二年生まれ。敗戦の時は十四歳だった。今でも覚えている天皇制に関する最初の読書の記憶は、詩人・作家の中野重治が、戦後最初に書いた小説「五勺の酒」である。一九四七年一月号の雑誌『展望』一月号に乗ったこの書簡体小説は、戦争中、教員であり、校長になって退職した主人公が新憲法発布当時の感想を綴ったもので、天皇を天皇制から解放し、個人にしなければ気の毒だと述べ、天皇と天皇制との具体的処理以外には民族道徳は生まれないと書いている。

私はこの作品に感銘し、全文をノートに書き写した。中野重治には「雨の降る品川駅」という名詩があり、その中で植民地下の父母の国朝鮮に帰って行く活動家たちを歌う中に「君らは雨にぬれて君らを追う日本天皇を思い出す君らは雨にぬれて 髭 眼鏡 猫背の彼を思い出す」という一節がある。この詩も生涯、忘れることはないだろう。

植民地支配と天皇制

一九五〇年六月、朝鮮戦争が勃発する。私は十九歳。大学一年生だった。朝鮮戦争反対の運動に加わりながら、朝鮮、中国を侵略し、東南

アジア諸国を植民地として支配した歴史に目覚めた。植民地化された韓国、「北朝鮮」が、今、謝罪と清算を求めているのは当然であり、日本政府が植民地化の歴史にまともに向き合わないことが北東アジアの平和の障害になっている。そのことへの自覚は、歴史をさかのぼって蝦夷地北海道と琉球王国の植民地化への謝罪と清算の必要性を教える。日本近代史は日本とアジアのピープルの立場から捉え返されなければならない。その侵略と支配の歴史の駆動力をなしていたのが天皇制による帝国支配思想であった。

アイヌ民族の場合

北海道のアイヌ民族にとって、天皇と天皇制は差別と抑圧をもたらした支配権力以外のなにものでもなかった。上西晴治の短編小説に、北海道大演習の時のエピソードを描いたものがある。天皇を乗せたお召し列車が十勝平野を通過する時、平原に牛や馬が遊んでいる様子を出すためにアイヌの飼い主が動員されたが、彼ら自身は草深い野に身を伏せて姿を見せなければならなかった。列車が通り過ぎて、その演出がうまくできた飼い主たちが喜ぶという話である。植民地の被支配民は草や木と同じで、いな

いも同然でなければならなかった。アルジェリアの現地民がそうだったと思想家フランツ・ファノンが書いている。

これからの時代に向かって

二十一世紀の今日とこれからの天皇制について考えてみよう。日本国民の多くは、天皇の存在を日本の精神的伝統として受け入れ、その地位をなくす必要を認めていない。現在、天皇は象徴とされ、政治的活動をしてはならないとされているが、保守政権と支配勢力にとっては、広い意味での政治的利用になくてはならない存在である。

人の上に人を作らない普遍的な人権の原理に立てば、この象徴としての天皇という地位は無し天皇は国民と対等平等な個人となるべきであり、政体としては共和制とすべきであるが、日本国民の多数が、この主張に同意するには、政治思想の変革が必要である。説得以外の暴力による変革は取るべきではないとすれば、なお長期にわたる意識改革の活動に待たなければならぬ。しかし、アジアと世界の恒久的な平和のためには、天皇制を廃止し、共和制の日本を作ることが望ましく、そのための努力を粘り強く続ける必要がある。

花崎 皋平 (はなざきこうへい)

著述業。近著『天と地と人と―民衆思想の実践と思索の往還から』

思考停止でいいの？

特集

加藤 多一

多くの日本人は、テンノウという四個の音を聞いたとたん、ものを考えられなくなる。そのほかのことでは考えぬくことができる科学的思考に慣れた人でも麻薬を注射されたようになる。

いったいどういう麻薬なのだろうー

敗戦(せつたい終戦という偽の呼び方はいやだ)のとき11歳だった私は、神国思想と軍国教育を徹底的に体に叩きこまれた。その上、私は、いなかの優等生だった。学校は、紋別郡滝上小学校・中学校。

大正時代の終わりごろナベ一個とノコ二丁を背に単身山形県から渡道した父は、労働力だけを頼りに入植した「遅れてきた開拓者」だった。進学したいが不可能だった父は、「家庭内教育」に力を入れた。子どもなりの労働(ハツカ畑の雑草めきや家事労働)には、きびしかったが、夜ランプの灯の下に顔を寄せてやる宿題などには、大いに力を入れてくれた。

一例として正月に子ども兄弟5人ほどの書初め大会があった。練習のために古新聞にまづ書くということはせず、いきなり真白な新しい用紙に書かせた。こういうことには、カ

ネを惜しまないという方針だったのだろう。多一の〈字〉は、「筋がいい」とほめられた。その後、書家として才能を発揮することはなかったが、ひらがなは、今でも美しく書ける。話をもどすと、体に叩きこまれたものへの憎しみが消えることはなかった。今に神風が吹いて日本は戦争に勝つのだというウソは、兄が沖縄で戦死させられた事実があるゆえに、〈ウソに反撥する力〉は、85歳になった今でも50kgしかないこの老体に健在している。

農民の子だから馬車を引く馬が当然のように停止して小便をするのを日常見ている。「生きものはみんなあそこから生まれてくるんだぞ。テンノウさまだつてそうだ。」馬追いの老人が言う。子どもたちは仰天する。

マサカ。マサカー  
「テンノウヘイ力は違うよね。」  
「そうかな。そうかなー」

これを農民リアリズムと呼びたい。あのころでさえ正しくモノを見る人間はいたのだ。知識階級ではなく、農村漁村で働く現

場の人々の中に。

もちろん時代が時代だから、わかっているも口に出さない農民のほうが多かったとは思

う。それでは、現代のこと。多数者の人々は、現在なぜ自分の眼と耳と口を自分の力で必死にふさいでいるのだろう。

「人間は考える葦である」とあのフランスの哲学者は、名言を残している。「我々考える、ゆえに私である」という名言も世界中の人間の心に入ってきているはずだ。パスカルの言を逆に言うところとなる。

「考えない者はニンゲンではない」  
天皇制の最大の毒は「思考停止装置」であると私は、しみじみ考えます。この装置をどうやって自分の体から取り去って捨てるか。まず、どこから手をつけるべきか。

加藤多一 (かとうたいち)  
童話作家。著書に『兄は沖縄で死んだ』(高文研)など。



特集

「天皇代替わりウォッチングをしてみましよう」講座より

牧口充枝

五月と六月、十人十三人が集まって、天皇制について語り合いました。象徴天皇制が、すっかり根付いてしまったのかという感のあるきょうこの頃。しかし、疑問だ、反対だと思ってる人々も、確かにいるのです。

手がかりとしては、テレビで見たことの話、新聞記事、退位メッセージ(二〇一七年)のプリント、「憲法解釈は朕のもの！」はおかしいー「生前退位問答」(天野憲一)など。

五月は、天皇の退位(上皇へ)、「令和」の始まり、新天皇の即位の大宣伝の中。六月は、国賓トランプの安倍首相の「おもてなし」、新天皇訪問の報道の嵐の中でした。

「昭和天皇」は、一九四五年までの二〇年間は、大日本帝国憲法下で実権をもった天皇として戦争を遂行してきたはずなのに、その責任を果たすことなく、一九四七年から四一年間は日本国憲法下で「国民の統合」の象徴としてさほど目立たずに生き、死んでいきました。ですから、「昭和」から「平成」への天皇代替わり(一九八九年)は、天皇の死というだ

けでなく、天皇の戦争責任を問う声が国内外にかなりあり、象徴天皇制そのものにたいする問題提起も少なからずあったので、今回のお祭り状態とは違いました。

その息子、「平成天皇(今上、きんじょう)と言っそうですが」は、子ども時代に戦争を経験し(父親の処刑の可能性を感じていたかどうか)、日本国憲法によって守られた「象徴天皇」の確立と継続をめざして、この三〇年間、努力してきました(それが国民のためと言いつながら)。そして今回、その息子「令和天皇(あえて書く)」に天皇の地位を譲り、自分は上皇になり、新しい時代到来の錯覚を与えました。

現在、国民の多くが戦争責任や天皇制の問題を考えなくなり(そもそも知らないのかも)、少しは考えてる人でも、「平成天皇はい人だ。」「安倍首相よりは、ずっといい。」「令和の皇后(雅子さん)は、かつこいい。」などと言っ風潮。そんな中、「安倍首相には問題を感じるが、天皇・皇室はいい」と思っていた世論↓(安倍政権による改元利用の効

果)↓安倍政権の支持率上昇という事態まで招いてしまいました。

増えているのは、戦前の天皇制はただだけれど戦後の天皇制はいいと思う人々だとしても、戦前と同じような明らかに民主主義に反する天皇制の復活をめざしてる人々の勢力も見逃せません。

この講座は、あと二回(七月五日、八月二日、九月六日)。象徴としての行為? 国事行為のみって? 天皇の特権・人権。個人の人氣と、制度の問題。廃止への道は? などなど。たとえ一〇人でも、語り合うことの大切さをかみしめていませひ、ご参加を!

牧口充枝(まきぐちみつえ) さっぼろ自由学校「遊」会員 元小学校教員 札幌圏連帯労働組合書記長

北海道平和運動フォーラム 代表 江本 秀春 代表 清末 愛砂 代表 長田 秀樹 札幌市中央区北4条西12丁目 TEL011-231-4157 FAX011-261-2759 http://peace-forum.org/

東ティモール マウバシ珈琲 オーガニックカフェやショップで販売中 フェアトレードの美味しいコーヒー!! NPO法人 ほっかいどうピーストレード TEL 070-5619-3222 hokkaidopeacetrade@gmail.com

特集

わたしと天皇制

小林ホピー

一九九九年二月一八日木曜日、第五回国民体育大会冬季大会「みなとおたる国体」の開会式が小樽市総合体育館におこなわれ、東京より当時の徳仁皇太子がやって来た。新聞で開会式の動員観覧を一般公募していることを知り、はがきで入場を申し込んだ。事前申し込み段階で、かねてから天皇制反対の活動をしている者は排除され、入場券がくるとは無いだらうと予想していたが、なぜか私たちの仲間二名と共に当選した。

こうして、真冬の厳戒警備の中、開会式会場に仲間と共にいく事にした。当日は、オタルの小・中学生がたくさん動員されて会場をつめ、一般公募入場者は決められた自分の番号の席に座る事になっていた。

会場に入る段階で、周りの雰囲気が変わっていた。私が決められた番号の席に座ったとき、急に私の周りに着席している、前列、後列、左右の一般入場者のひとたちに、明らかに私

服警察官と思われる男性が、次々に声をかけ席を移動させて、あつというまに私の席をその男たちが取り囲んでしまった。

急に、移動させられた周りの人々の視線と一人の女性を取り囲む男たちの不気味さ。当日雪が降っていたので傘を持って入場した私は、彼らにとっては「凶器」を持つ要注意人物となっていたのだ。

一挙手一投足を監視する無言の圧力を感じた。開会式での起立しての「君が代」斉唱も歌わずそのまま座っていた。「君が代」が終わる時皆が着席してから、その場で私が立ち上がると周りの男たちが慌てて一斉に立ち上がった。すぐ横の男は傘を投げつけないよう、席の横に置いた傘を必死に奪いとっていった。

その異常な光景に周りの人たちが一瞬ざわめいた。私は国体式典に皇太子が来ることによつて、市民がどのように動員されているのか見に行っただけなのに。

敗戦後、民主国になったはずの日本で、今も天皇制を権力が使つて人々を統制している。毎年開催される国体関連行事は天皇家の権威を体現させる虚構のセレモニーの一つだと思っ。

かえりも、雪道を黒のオーバーを着た不気味な集団が、ずっと後をつけてきた。

オタル市内では、皇太子夫妻が通るから、沿道で「日の丸」を振つて迎えて下さいと呼びかけがあり、オタル駅前デパート前でズラリと並んで旗振りをしている人たちがいた。

あの厳戒態勢・警備と無言の圧力、つけ回し威圧する。いったい天皇制とは何なのか? 昔の特高警察と変わらない、逆らう者には国家権力が襲い掛かってくる。

国体という若者のスポーツの場に名を借りて、市民総動員して何を祝うのか?

市民弾圧をして、自由に物が言えない社会だから天皇制は存在するのだ。

小林ホピー(こばやしほぴい) 米空母に反対する市民の会



特集

天皇制とジェンダー

本庄十喜

「万世一系」イデオロギーと創られた「伝統」  
天皇の代替わり際、皇位継承問題をめぐる議論がかまびすしい。しかし、それらはほぼ同様に「男子」継承が伝統であるとし、疑うことをしない。その「伝統」はたかだか100年前に創られたものなのに。

125代の男系・男子の天皇が連続と続いてきたとする「万世一系」イデオロギーが、この社会には深く浸透していることにつとに驚かされるが、『日本書紀』の記す「初代」神武から「二五代」武烈までの間には多くの実在しない天皇名が含まれているし、そもそもひとつの血統による王位世襲は5世紀末頃までは確立していなかった。つまり、近年の研究では、世襲王権は6世紀以降に成立するという説が有力であり、それ以前は天皇（大王）家（7世紀以前の支配者は大王であり、天皇に称号が変わったのは天武朝期）も成立していなかったと考えられている。

女性天皇、女系天皇

女帝は皇位継承に困難があった場合の「中継ぎ」というのが、明治以来現在までの政府

の公式見解だ。しかし実際には、男系男子による継承順位が法的に決まるのは近代からで、世襲の確立や男子優先・父系嫡子系思考は時代の変化に応じて形成されてきた慣習であり、女帝を排除するものではなかった。つまり、日本はもともと双系の社会で、男女差はあまりなく、父系と同様に母方の系統も重要だった。記録上の最初の女帝は推古で、その後皇極（元明・元正・孝謙）と、古代には8代6人の女帝がいた。一方、同時代の男帝は（明治に弘文天皇と諡された大友皇子を入れても）8人であり、即位年齢をみても性差はない。9世紀以降、支配層を中心に次第に男性優位が浸透し、皇位も男性が独占するが、女帝の可能性がなかったわけではなく、近世には2人の女帝が即位する。

皇室典範とジェンダー

「個人の尊厳と両性の本質的平等」を掲げた日本国憲法第24条は、本質的には明治民法の規定した「家」制度の否定を指すものであり、「家」制度に伴う父系／男系優先型の家父長制を否定しただけでなく、夫婦家族に内在す

る「近代的家父長制」をも否定したものだと考えられている。一方、日本国憲法と同日施行された現皇室典範は、旧皇室典範（1889年2月11日制定）を引き継ぎ「皇位は、皇統に属する男系の男子がこれを継承する」（第1条）と皇位継承資格を定めている。

ここで問題とすべきなのは、明治期と異なり敗戦後の憲法は男女平等原則を明示し、社会においても女性解放思想は相当程度高まりをみせていたにもかかわらず、天皇制を引き続き受容したとき、旧典範の男系・男子主義の「万世一系」イデオロギーをも抵抗なく受容したという点である。それは、いかなれば皇室の女性の権利の否定でもあった。つまり、「万世一系」イデオロギーに無批判な社会は、ジェンダー格差に実に鈍感な社会なのだ。性犯罪が処罰されにくく、男女平等に関する国際評価も低い（世界経済フォーラムがまとめた2018年度ジェンダーギャップ指数は調査対象149カ国中110位）日本社会のありようが、今回の改元によりあらためて露呈したのである。

参考：歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』（東京大学出版会、2008）

本庄十喜（ほんじょうとぎ）

東京都生まれ。北海道教育大学札幌校准教授。専攻は日本現代史、戦後補償運動史、民衆運動史。

特集

憲法 守れる？

黒田秀之

「皆さんとともに日本国憲法を守り、これに従って責務を果たすことを誓う」と即位に際して述べたことが天皇昭仁を護憲派天皇とする端緒になったようだ。しかし「天皇の国事に関するすべての行為には、内閣の助言と承認を必要とし、内閣が、その責任を負う」と、自身の一切が委ねられるその内閣が、わずかの時間を除いて守ろうというその憲法を「改正されたこと」にどう折り合いをつけて事に臨んできたのだろうか。「改正」を気負う現政権に対比されるようにして持ち上げられる「平成流」という、現政権に批判的な層の少なくない人たちにも受け入れられている彼の振る舞いがその答えか。

ところで、この度の代替わりに際して、提訴されている即位大嘗祭違憲訴訟は、護憲派天皇のその護憲のありようを検証するものの一つだが、他にも、十六年夏の代替わり表明について「これが護憲なのか？」という声はアチコチで上がっている。が、その声はアチコチに封じ込められ、広く議論になることが避けられている。八月八日のあの「お言葉」放送を発するの如何にして公共放送のハイ

ジャックに成功したのかと多くの人が不可解に思っているものの、それが公に取り上げられることなく、今もって不明のままだ。放送の直前まで内閣（官房長官）が言っていた「与り知らぬ」が本当なら、護憲派天皇は必要とする「助言も承認も」なしに誰かとビデオを作り、その結果が「皇室典範改正」という国政への関与になり、違憲派天皇になる。このことは十七年の遊の天皇を巡る講座「退位の大意」で参加者に共有されたところ。ただ彼にとってこの行為は「国事行為」とは別の「考え続けてきた象徴としての行為」の一つであって、違憲ではない。

そもそも憲法では天皇がする「象徴としての行為」など一切想定していない。あるのは第一条「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて」だけ。つまり「天皇は象徴である」とただそれだけ。「天皇制度」を残すのに「徽章」でも「鳩」でもない「生身の人間」を「象徴」にしてしまったその結果をその後の天皇たちは引き受けざるを得ないし、それによってしか存在できない。そして「象徴」の二代目である天皇昭仁、考え抜いた末、「人間が象徴であることはできない。

何より象徴にされてしまったのは日本国民ではない。この憲法、第一章は誰にも守ることができない」と気付いた。が、今自分の代で終わりにしたくはない。とすれば「象徴である」を「象徴でいる」と読み替えて「天皇家の未来を象徴天皇の務めを途切れることなく続けることに託し」、三代目へつないだ。

そして三代目の天皇徳仁。即位に際し「常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務をはたすことを誓い」と踏襲する。

「明治」から三代、天皇は力づくで人々を動員してきた。その三代目天皇裕仁は新憲法下の一代目に居直り、帽子を振って「あつ、そつ」。二代目は「祈りと寄り添い」の平成流。寄り添われたり、祈られたりを喜ぶ人もいるが、「つつとつしいよ」「自分たちのことは自分たちでするから」と断ると、そんな人はやはり力づくで排除。そして三代目の始まりはトランプと自在に話すことが評判になる。こうして「天皇制度」は続く？ でも、三代目というのは、とかく躰きがちだが…。（本文中、敬称は略）

黒田秀之（くろたひでゆき）  
車道の隅を自転車で走りながら、何時までこうしてられるかと思う今日この頃。

講座  
報告

人権から見た在日コリアン戦後七〇年史を受講して

糟谷奈保子

さっぽろ自由学校遊の会員になったきっかけは2015年後期の「在日コリアンのいまから、日本社会を考える」という講座でした。林炳澤さんのお名前を見て、35年も前になる記憶。近所の女性に連れられて札幌で日韓の学習会に参加。従軍慰安婦や韓国の軍事独裁政権の事を知って驚き、指紋捺捺のこと、参政権が無いことなども初めて知りました。自分も含めた日本人がいかに無関心なことかと考えていたけれど、結局時間は過ぎてしまつて…。ひどい人権侵害の指紋捺捺は1992年撤廃されたけれど、何十年も日本に住んでいるにもかかわらず参政権は未だにないままです。

今年5月31日、パク・クオンホさんの講座「朝鮮半島の今とこれから」で、韓国では5年以上住んで永住権があれば参政権があり、実際外国人議員もいるということでした。日本で今、参政権の事を取り上げる議員はいないということ。今話しておかないと在日コリアンの歴史を話す人がいなくなつてしまつと言われたように、今回の講座で、林

さんは参加者が理解できるように、ゆっくりと、繰り返し、繰り返し資料の説明をしてくれました。戦後制定された外国人登録法や複雑に改正された出入国管理法などにより在日朝鮮人への差別は今日までも続いています。問題が多すぎて私は理解しきれいていません。講座が再度開催されることを期待しています。今回参加できなかった人たちもいるでしょう。

感想を聞かれて若い人二人は述べていたけれど、中高年組は黙ったまま。一体どんな感想を言えたでしょうか。在日朝鮮人の歴史を突き付けられて、いまさら知らなかったとは言えない。「これからどうすべきか皆さんが問われている問題です。」と林さんはいつも少しおこつたように言われます。近年ヘイトはひどくなるばかりです。札幌で講座や講演会に参加したあと、地域に戻った時に、私はどうすべきか、答えがわからないままです。

糟谷奈保子(かすやなおこ)  
さっぽろ自由学校「遊」会員。石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会。

「在日コリアン七〇年史」をお話して

林炳澤(いむびよんてく)

これまで在日コリアンの差別・人権における個別問題を講演したことは数多くあるが、戦後七〇年を通観した連続講座(五月五回)を行ったのは初めてである。それだけに講師的には大きな意義を感じているが、「遊」の共同代表としてはマニアックな企画で赤字にならないかと懸念した。が、幸い毎回約三〇人の参加者をえてホツとした次第である。

在日コリアンにとつての七〇年間の歴史は、差別の改善もあるが、未だに日本政府・社会の差別性も根強く、積み残された問題も多い。従つて糟谷さんの感想の「問題が多すぎて理解しきれいていない」こともあろうが、講師の私としては、七〇年間を通じて差別性を確認していただければ、また何か一点でも痛感してもらえれば、幸甚だと思つている。

体系的歴史性にかかわる企画だけに、一度だけで良いのかは考えるところもあるが、その点は今後、「遊」関係者のご意見もいただければと考えている。

講座  
報告

公開講座 「北朝鮮を経済から読み解く」

— したたかにしなやかに生きる人々

七尾寿子

日本で報道される朝鮮民主主義人民共和国(以下、北朝鮮)の情報は、拉致問題や長距離弾道ミサイルなどネガティブなものが多い。しかし、朝鮮総聯の機関紙である朝鮮新報の記者として平壤特派員も経験し、その後には研究者として北朝鮮の各地を15回に渡つて訪れた文聖姫(ムンソンヒ)さんは、人々の中に入り込み、時に焼酎を酌み交わしながら、経済を切り口に取材と調査を進め、『麦酒(ビール)とテポドン』(平凡社新書)として一般の人々の暮らしを生き生きと著した。

著作は好評で、札幌では、3回の講演があった。もはや厳格な社会主義計画経済ではなく、市場経済化が進む北朝鮮の現状や、新興富裕層の知られざる姿が興味深い写真とともに紹介された。

1990年代の食糧危機で発達したヤミ市場は、国が認めた「地域市場」に発展し、いまや路地裏やアパートの庭にも小規模の市場があるという。当初は警察の取り締まりを素早

く察知して逃げる姿からメトウギ(パッタ)市場と呼ばれたが、その後は、警察の取り締まりをもともせず商売を続けるようになり、チンデウギ(ダニ)市場と呼ばれているという。

停まつてしまつたきり動かない列車。線路上には、にわか市場ができてたり、腹ペコでよつて来る子たちにせがまれてご飯を分け与える若者、夜には乗客たちが線路に降りて歌や踊りが始まつたりしたという話を聞いて、日本で暮らす私が言葉に込める豊かさや貧困という意味では表せない、人々のしたたかさ、しなやかさ、温かさを感じた。

財布に100ドル相当のお金しかなかった女性が商才を発揮してホテル経営者になったとか、朝食を自宅に配達させるような金持ちも出現したといった、現地でしか聞けない情報も語ってくれた。そうした新興富裕層は、アパートの建設費用の一部を負担する代わりに、住宅の売買を許されるなど、権力側と持ちつ持たれつの関係にあるという。金正恩朝

鮮労働委員長は経済発展と国民への統制を両立できると自信を持っていることだろう。金委員長は経済改善に向けたマイノリティを持つており、非核化への確かな意志があるというのが文さんの判断である。

平壤を流れる大同江の名を冠せたテドンガンビールは、コクがあつておいしいと文さんは力説する。ビアガーデンが増えたり、ビールの祭典が開催されたりすることは経済開放の拡大につながる。

祖国よ、テポドンに象徴されるミサイルを開発するよりも麦酒(ビール)で経済開放を、という強い願いが「麦酒とテポドン」というタイトルに込められていると知つた。

この公開講座を皮切りに、連続講座「ひとつの夢、ひとつのコリア」朝鮮半島のいまとこれから」がスタートしている。第1回「南北分断が韓国政治に与えた影響」政治学の視点から「朴権浩(パククオンホ)さん、第2回「秘境から情景へ」玄武岩(ヒョンムアン)さん、第3回は、7月26日「朝・米対決の原点を探る」林炳澤(イムピョニテク)さん。

七尾寿子(ななおひさこ)  
元さっぽろ自由学校「遊」共同代表。文さんの講演を3回聞いて、北朝鮮に行きたいと夢が膨らんでいる。



第七八回 イワシと特攻兵器とユリ

イワシから世界が見えないか、と考え、あちこちのイワシ漁をめぐっている。

三年前、長崎県雲仙市の南串山で、大きなイワシ漁を営む竹下康徳さんのおうちにかがったとき、しかし最初にされたのは、戦争の話だった。

「沖繩から来ていた金城さんという方が、他の予科練（海軍飛行予科練習生）の人たちと一緒に、うちに泊まっていた。私は小学校六年生でしたので、一緒に部屋で寝ていたのです」

一緒に聞いた中に、私の元学生で沖繩出身の金城達也さんがいたので、竹下さんは、それでつい予科練の金城さんを思い出したのだった。

「その人たちは、震洋の格納庫を掘っていたのです」。震洋とは、日本軍が開発した特攻兵器。ベニアで作ったボートの艇首部に爆薬を装備し、体当たり攻撃するものだ。その格納庫が南串山に作られた。掘削作業は危険な作業で、地元住民もかり出され、死者も多く出たようだ。

もちろん私たちが聞きたかったの

# ひがしさんのボロボロ日記

第102回 東 龍夫

「ゲノム編集食品、って知ってる？」

ちょっと前の新聞に載っていて、気になっていました。「ゲノム編集」とは、遺伝子のある部分を人工的に壊す技術だそうです。例えば、「暑さに弱い遺伝子を壊す」ということをします。「遺伝子組み換え」と違つのは、他の生物の遺伝子を組み入れるのではなく、その生物の遺伝子を組み替える技術です。でもどっちにしろ、「生物の遺伝子を人工的にいじくる」ことに変わりありません。その影響が、自然界や人間の身体にどのような影響を及ぼすのか、不安は大きくなるばかりです。

ところが！今年3月18日に厚生労働省は、

## フィールドワークな日々

宮内泰介の

は、イワシ漁の話だ。しかし、戦争の話もぜひ聞きたい。それで、竹下さんのお兄さんが原爆で亡くなった話（お兄さんが学生だった長崎医科大学は爆心地にたいへん近く、ほとんどが即死。山田洋次監督映画「母と暮らせば」がその様子を描写している）などをひとしきり聞いたあと、ようやくイワシの話を書くことになった。

しかしイワシの話の聞き始めると、竹下さんは、今度はユリの話を始めた。

「うちは戦前、ユリ根の輸出をやっていました。農家が木子（きご）（地中海球根のまわりに発生する小球根）を三年ほど栽培したものを買い、商社を通してアメリカに輸出していたのです。しかし、戦争の時に経済封鎖を受けて輸出が止まってしまいました。ユリ根は神戸あたりの倉庫に出したままで、輸出できず、すべてがだめになりました。うちは問屋業だったため、ユリ根をあずかった農家に対する補償金を支払わなければなりません。そのため父は、自分の土地を売って、それを農家への補償金にあてました。こんな仕事は子

次のような方針の発表をしました。「ゲノム編集食品については、開発情報を任意に届けただけでよい。遺伝子組み換え食品のような審査を受ける必要がない」。つまり、何の表示のないうままゲノム編集食品がスーパーマーケットの店頭に並ぶかも知れないのです。厚生労働省は言います。「突然変異は自然界でもあり、ゲノム編集はそれと同じ」と。自然界で起きる突然変異と人工的に行なうゲノム編集が同じだとは誰も思わないでしょう。EUでは、遺伝子組み換えと同様という判断を示し、表示することが決まっています。

実際にゲノム編集食品の開発が始まっているといます。小麦は、欧米では主食で、さすがに遺伝子組み換え品種の開発が行われませんでした。ゲノム編集の小麦の開発が活発になっていると言います。日本では、「花粉症に効く米」が研究されていると言います。また動物では、ある種のウィルスに耐性のある豚や、筋肉量の多い牛も開発されています。魚では、成長が早く肉の多いフグなども開発中と言います。

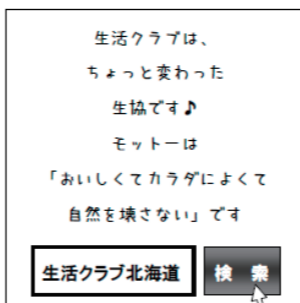
ゲノム編集には、さまざまリスクが専門家から指摘されています。

これらの食品を食へ続けた時、わたしたちの未来に何が起きるのでしょうか？誰もわからないのです。

どもに受け継がせられないと考え、父は戦後イワシの巻き網を始めたのです。それを私が継ぎました」  
ここでようやくイワシの話にたどり着く。でもユリ根の話も気になるので、少し調べてみた。すると、おもしろいことが分かってくる。日本のユリは一九世紀以来欧米で観賞用として人気であり、ユリ根は明治初期よりすでに輸出されていた。戦前には、主要輸出品の一つとして、全国的に栽培されていたという。長崎だけの話ではなかったのだ。  
竹下さんには、その後合計五回（合わせる十時間）話を聞き、現在それを聞き書きとしてまとめているところ。それにしても、たった一人の人の話からでも、歴史は実に立体的によみがえる。

### 宮内 泰介 (みやうち たいすけ)

1961年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員(環境社会学)。ソロモン諸島、北海道、宮城などで、環境生活の調査中。



by 飛郎

東龍夫（ひがしたつお）  
1952年生まれ。再生資源回収業。大量消費社会から持続可能な循環型社会を目指して活動中。札幌市環境保全アドバイザー、北海道環境学習トレーナーを務める。





# そのままに俳句

第20回

世界最短の定型詩と言われる俳句。五・七・五で作られる世界。日常、見たり聞いたり感じたりしたことを、忙しい日々で忘れてしまふその一瞬を、十七文字に込めてみました。

## 我が道と横切る蝶の優雅なる

足早に急ぐ朝。季節が変わったこともうっかり気づかずに通り返してしまいがちな日々、目の前をモンシロチョウがふんわりと横切った。美しい白とその優雅な舞に、はっとした。久しぶりに蝶を見たような気がしたが、でもきつとそんなはずはない。蝶も季節も変わらずに毎年やってくる。なんだかいつもバタバタと忙しくしているけれど、ゆったりと飛ぶモンシロチョウに、少しだけゆっくり歩いてみるのもいいよ、教えてもらったような気がした。



## 羽の上見えた景色に春眠し

飛行機の中は、あまりやることもないため、私にとって最高の睡眠タイム。普段の生活では、あれもやりたいこれもやりたいと動いているうちに、自然と睡眠が削られる。その点、飛行機は絶好の睡眠チャンス。先日の乗った飛行機はエアドゥ。いつものように窓側席に座っていた。ちょうど翼が見える席で、窓の外には、エアドゥのキャラクター、ベアドゥが翼の上で眠っているイラストが描かれていた。乗客を楽しませる、ちょっとした工夫。こういう遊び心って素敵。眠っているベアドゥに誘われ、一緒にうとうと。

## 事務局だより



昨年度のインターンだった沢田祐季さんが企画運営してくれている「ポトムアップで考える子どもの貧困」。北海学園大のゼミと連携しての講座になって、学生がたくさん参加してくれている。

45人ずつのグループセッションは、私以外の3人はみな19歳。発言してくれるかなあ、なんてちょっと心配したりしたが、具体的な話を投げかけるとどんどん活発なやりとりになる。グループごとの発表者の決め方（誕生日とか洋服の色とか、アイスブレッキングのようでおもしろいんです）の工夫や、なかなか自分から挙手はしないけれども発表者に当たると臆せず言いたいことを発言することに、なんだか感動してしまっただ。

考えていないようでもそれなりに考えている、柔軟で肩に力が入っていないで、いつもとはちよつと違う経験だった。それにしても、20人もの学生で愛生館サロンがいっぱいになる講座が、これからも時々あるといいな。企画し交渉し運営してくれた沢田さん、ありがとう、お疲れさま。（細谷洋子）



## 編集後記

代替わりに際して天皇の前に恭しく運ばれる箱。その様子を総理大臣以下が見守る。が、箱の中にあるモノを誰も・天皇その人も見たことがない。この空虚な儀式をしているのが天皇と国家公務員であることを子どもにはしっかり見てもらいたい。「王様は裸だ」と見破るのは子どもだ。（く）

内科・神経内科

札幌中央  
ファミリークリニック

外来一般診療  
月火木金9:00~11:30

札幌市中央区南1条西11丁目  
ワンズ南一条ビル6F  
TEL. 272-3455

自然食ホロ



札幌市東区中沼西  
5条2丁目3-16  
TEL: 887-6224

いつも喜んで、  
感謝して。

<http://holo.sunnyday.jp/>





## さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

7～8月の講座よりピックアップ  
(※は単発参加費)

**老いと向き合う** \*一般・会員 600、25歳以下 500

7/5(金) 14:00～『百まで生きる覚悟』を手掛かりに ●細谷洋子さん

8/2(金) 14:00～老いたればこそ地域でともに暮らす ●奥山睦さん

**日本を売らせない！一水道民営化をめぐって** \*一般 1,500、会員 1,000、25歳以下 500

於：愛生館サロン（愛生館ビル6F・南側奥）

7/8(月)18:45～改正水道法で、持続可能な水道となるか？ ●永井雅師（元全日本水道労組委員長）

8/5(月)18:45～当別ダムと水道事業 ●石川さわ子（市民ネットワーク北海道共同代表）

**ボトムアップで考える”子どもの貧困”** \* 500 於：愛生館サロン

7/11(木)18:45～”貧”と”困”から考えよう

**アイヌが描く、アイヌモシリの未来** \*一般 1,500 会員 1,000 25歳以下 500

7/19(金)18:45～オホーツクの森と海からアイヌ民族の権利回復を ●畠山敏（紋別アイヌ協会会長）

8/23(金)18:45～強制移住と遺骨盗掘 ●木村二三夫（平取アイヌ協会副会長）

**外国人技能実習生から考える人権問題** \*一般 1,500、会員 1,000、25歳以下 500 於：愛生館サロン

7/22(月)18:45～外国人受入と人権 ●小野寺信勝（弁護士・北海道合同法律事務所）

**ひとつの夢、ひとつのコリア** \*一般 1,500、会員 1,000、25歳以下 500

7/26(金)18:45～朝・米対決の原点を探る ●林炳澤（さっぽろ自由学校「遊」共同代表）

**このままでいいの？再生可能エネルギーの進め方 パート4** \*一般 1,500、会員 1,000、25歳以下 500

7/23(火)18:45～稚内市における風車の健康影響 ●佐々木邦夫（風力発電の真実を知る会）

8/27(火)18:45～持続不可能な大型木質バイオマス発電 ●小泉雅弘（さっぽろ自由学校「遊」事務局長）

### 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館ツアー

- 7月27日(土) 現地集合 10:30～13:00
- 場所 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館（広島長崎原爆資料展示館）
- 一般 1,500円 会員 1,000円 25歳以下 500円 ※要事前予約  
※申込時にオプションの軽食（600円）についても申込ください。
- 内容 展示資料のガイドツアー、ヒバクシャの方の体験談  
軽食を取りながら感想、意見、現在の情勢の交流

※お詫びと訂正  
「ゆうひろば」第170号の8Pにおいて、白土奈津代さんの読み仮名を（しらとなつよ）としておりましたが、（しらつちとなつよ）でした。お詫びとともに訂正いたします。

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F 501

・郵便振替口座：02780-5-47036（名義：自由学校「遊」）



- ・TEL:011-252-6752
- ・FAX:011-252-6751
- ・syu@sapporoyu.org
- ・http://www.sapporoyu.org



オーガニック・自然食品専門店



おべんととおそうざい



札幌市中央区大通西23丁目  
Tel 614-2406 Fax 614-3836  
http://rarubatake.com  
10時～19時(日～17時・祝～18時)